

# 酒類・食品 & News解説

## 週刊

令和7年12月26日(金曜日) 第3476号

(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)

毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健

購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)

振替番号 東京4-71739

発行所 株式会社日刊経済通信社

本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋川ビル

☎03(5847)6611代 FAX 03(5847)6600

名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791

http://www.nikkankeizai.co.jp/

本紙が選んだ

## 今年の重大ニュース②

### 酒類

今年の酒類業界は、最需要期である夏場に、外出もままならぬほどの想定超えの酷暑に見舞われた。その影響もあり、全般的に夏場は厳しい環境となった。加えて第4四半期とともに、ビール関連でシステム障害が発生し、その対応に製販三層が追われている。

酒類の種類では、RTDが実績レベルから微減での推移、無糖が2ケタ伸長、さらに茶類割り(緑茶・

ジャスミン茶など)やジン系統が全体をリードしている。ビールは11月までの累計で微減レベル。ビール類トータルで95%前後での着地が見込まれるが、12月の年末需要でどこまで盛り返せるかも焦点だ。好調が続いているのが輸出。ウイスキー、日本酒が引き続き堅調、ビールも2ケタ伸長だ。

以下、各種類ごとに重大ニュースをまとめてみた。

### 主な内容

2025年の重大ニュース②

1~7面

(酒類、嗜好、小麦粉・品、油脂、即席麺、缶詰詰、冷凍食品)

◎新年号は1月9日発行の2日・9日合併号とさせていただきます。

ボツノミズノとスボーツ味の素社ト支援策発表

11月のアイス商況

10月のみそ出荷量

シマヤ、粉de鍋が好調

◎原料商品情報

8面 11面 9面 14面 13面 7面

## ◎ビール類ビール健闘も、トータルで95%前後の着地か

1~11月時点でのビール類大手3社(システム障害のアサヒ除く)の販売状況は、ビールが101%強、旧新ジャンル91%強、発泡酒が95%強で推移してお

り、全体では97%弱となっている。ビールは各社とも基幹銘柄が比較的堅調に動いている。年間でのビール類販売数量は95%前後での着地と見る。

容器別の累計では、缶製品が96%

水準。容器別構成比は80・1%と昨年

年同月比0・6%落としており、若干歳暮向けビール

ギフトの相次ぐ販売中止の影響も見られた。

一方、業務用樽・びんは、累計

で99・8%とほぼ実績並み水準をキープするなど健闘しており、12月初旬からのアサヒEOS受発注再開もあり、年末に向けた需要の高まりに期待したい。

◎スピリッツ類ハイ

ボール需要は堅調も国産に

ウイスキー市場は高価格の国産クラフトが踊り場に入

った。中国経済の停滞と相まって勢いは停滞。銘柄により明暗が分かれ始めている。

一方で、長らく品薄だったアイテムは出荷制限が徐々に緩和され、エイジン

グ商品も少しずつ店頭で見かけられるようになり、落ち着きを取り戻してきた。業家ともに、ハイボール需要は底堅く、RTD缶はラインアップが充実。初めてウイスキーを飲む人の接点になっており、その重要性が増している。

ジャパニーズウイスキーは、ロゴマークが日本で商

標登録(10月17日付)。来春頃、ロゴマークの付いた商品が流通される。海外にも広く商標登録を出願中。

ジン市場は、2020年3月に「翠(SUI)」が発売されて以降、急速に拡

大。25年はプレミアム「ROKU(六)」の需要も伸び始め、理想的な展開となった。

国産クラフトジンは、熟成に時間がかかるウイスキーが販売できるようになるまでの繋ぎとして造られた面もあるが、多種多様な魅力的なアイテムも多い。

「翠」でジンの間口が広がった今、セカンドチョイスになれるかが、勝敗をわけるだろう。

テキーラは「クエルボ」が市場をけん引。手頃な「エスペリアル」だけでなく、プレミアム「1800」も好調に推移した。他商品への波及もみられ、高級路線のアガベ100%テキーラも一部で支持されたよう

だ。テキーラ市場は今後の拡大が期待される。スピリッツの伸長は気候変動による温暖化の影響も大きい。ソーダ割りにすれ

(2面に続く)



Asahi SUPER "DRY" 生

冷やすほどに  
キレ冴える、  
辛口<生>

アサヒビール株式会社

ビールストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。